

第2回松本市学校部活動の地域クラブ活動への移行検討協議会 会議録

- 1 開催日時 令和5年8月21日(月) 午後2時から午後3時30分まで
- 2 場 所 総合体育館大会議室
- 3 出席委員 会 長 長沼 豊 氏
副会長 新井 喜代加 氏
委 員 宮澤 陽子 氏
委 員 加藤 慎介 氏
委 員 矢野 麻美 氏
委 員 横内 俊哉 氏
委 員 柄澤 深 氏
委 員 青山 織人 氏
- 4 事 務 局 伊佐治教育長、逸見次長、坂口教育監、大島スポーツ本部長、小口文化観光部長、藤森住民自治局長、小西教育政策課長、丸山学校教育課施設担当課長、石川生涯学習課長、甕地域づくりセンター長、清澤文化振興課長、幅部活動地域移行統括コーディネーター、高山学校支援室指導主事、齋藤スポーツ事業推進課主査、降旗教育政策課係長、竹内教育政策課主査、千賀教育政策課主査、脇谷文化振興課主事

< 会議事項 >

地域移行モデルケースの進捗状況について

幅部活動地域移行統括コーディネーターが説明。

(委 員) 部活動指導員起点型は指導員が自主的に始めたケースか？

(幅統括コーディネーター)

波田中合唱部で指導に当たっている指導員が6年目(最終年度)に入るため、事務局からもクラブ化をお願いした。指導員自身の希望もあり、実現した。

(委 員) 指導者がいなくても子どもたちが自主的に活動をやっていることが大事。大人が一人は必要だが、指導者がいなくても生徒のリーダーが主導となって活動できることが必要。主体的・対話的で深い学びができる活動にしていくことが大事。

(委 員) 高綱中学校の女子バスケットボールのクラブ活動はチャレンジコースとエンジョイコースがあることがすばらしい。ほかの自治体ではない取り組み。

(委 員) 夏休みから野球の合同練習が始まったと聞いたが、保護者が送迎しているのか？

(幅統括コーディネーター)

練習会場は週によって変わるため、基本的には保護者が送迎してるが、自転車で参加している生徒もいる。

課題管理表の対応報告について

降旗教育政策課係長が説明。

(委員) どういう状況になったら拠点校部活となるのか、教えてほしい。

(高山指導主事)

今のタイミングで拠点部活動を組んだとしても令和8年には解体することになってしまいそれが大きなハードルとなる可能性があることや、経験の無い先生が指導せざるを得なくなる可能性があるため、拠点校部活を市が認める予定はない。

文化部活動の現状について

清澤文化振興課長が説明。

(委員) 地域クラブリストを今後中学生に紹介していくのか？

(清澤課長) 今後時期を見て紹介する予定。

(委員) プロットしてあるこの図は何を意味するのか？

(石川課長) 市内の社会教育施設等を記している。松本は公民館活動が盛んでサークル数も多いが、地域の交流や仲間づくりとして活動している団体が多いため、中学生の部活の指導を実施できる団体は少ないと思っている。

(委員) 美術部や家庭課部などは教員の方が休日出勤してきて負担になるレベルの活動なのか？そこに課題意識を持っているのか？

(幅統括コーディネーター)

コンクールのある吹奏楽と合唱は土日も活動していますが、他の文化部は文化祭前の土日に活動する程度で基本平日のみであるため、それほど困ってはいないと認識している。土日活動しない部活動は別枠で考えてなければと考えている。

(委員) 中学校の部活動は指導者次第で、かなり質が変わってくると思う。文化部も合同部活動を検討してもよいと思う。

(幅統括コーディネーター)

現時点では難しいと考えている。

(委員) 少子化の波は文化部活動にも影響が来る。文化の香り漂う松本市なので、文化活動をしっかり盛り上げていただき、中学生がやりたいことがないことにならないようお願いしたい。

今後の方向性について

小西教育政策課長が説明。

- (委員) 地域移行の大きな課題は指導者の確保。休日の指導者がいない学校へ指導者を派遣するモデルケースの成功例があれば、他校も参考にしやすい。また、スポーツ団体による指導者の派遣をして指導するモデルケースがあると良いと思う。
- (委員) 保護者から不安や期待の声を聞いている。11月に新入生の入学説明会があるので、それまでにまとめた資料がほしい。
- (小西課長) 公表できるものに関しては早々に情報提供していく。
- (委員) 奈川の部活に大野川、安曇から通うには40分以上かかる。保護者負担ではなく、デマンド交通のようなものがあったら良いと思う。
- (幅統括コーディネーター)
貴重な意見として今後検討していく。
- (委員) 認定地域クラブを随時公開していただき、一覧表のようなものがあれば、家庭でも話し合いができる。HOME&SCHOOLを活用してほしい。
- (小西課長) 一覧表については整い次第公開していく。
- (伊佐治教育長)
会議資料に記載の持続可能な地域クラブ活動に向けての原則からは全て案の段階。地域クラブ認定も案になる。外部指導者になったときの指導方法については不安があると思うが、それを検討したうえで公認クラブを進めたいと考えている。その点も踏まえてご意見がほしい。
- (委員) 組織がしっかりしていること、指導資格があるか、ライセンスを持っている指導者がいるかが大事だと思う。
- (委員) 文科系は認定クラブとすることが非常に難しいと思う。行政が認定するので一定の責任を負うことになるが、認定要件は厳しくしないようにしてほしい。吹奏楽以外で認定していくことは難しいと思う。
- (小西課長) 各団体が申請しやすいことは大事だと思う。ただし、安心安全なクラブとして一定の認定要件は必要だと考えている。
- (委員) 安心安全を保護者に示すことは大事だと思う。ガバナンスコードの策定は大事だと思うが、作りやすさも必要だと思う。
実施設計、予算等行政のルールと学校運営上のスケジュールをすり合わせて具体的な姿を提示しないとクラブの立ち上げには繋がらないと思う。学校に責任があったものを市が委託、認定するような型にはめるといったことはしっかり議論した方が良いと思う。地域クラブが発足しやすいようにする方が良いと思う。
- (委員) 団体の育成が着地点であれば、市が認定するのではなく、評価する方法にしたほうがよい。
- (荒井教育顧問)
保護者も部活動の地域移行について困惑していると思う。団体リストなどの情報を保護者説明会等で共有することが大事だと思う。
- (荒井教育顧問)
県のフリースクールの認証制度も、認証方法、体制、時期、回数、不正が起きた際の対処法など、細かな部分まで検討し、行政が伴走者として進め

ている。市が認証してあげるといったニュアンスではなく、育てるといった感覚で進めることが大事だと思う。

(委員) ここまでやっている自治体はない。本当に真剣に考えていると思う。平日の移行を令和8年に目指していることも驚いた。掛川市がトップランナーだと思っていたが、松本市も全国でトップレベルの内容になってきていると思う。

(閉会)